

第1回有識者懇談会(令和4年7月1日)の主な意見の状況

資料 1

第1回懇談会では「県内外の方々が行ってみたい博物館・人が集まる博物館」をテーマに以下のような意見を頂戴しました。

※各「視点」は、ご意見の内容を踏まえて事務局でまとめたもの

視 点	第1回懇談会の主な意見
【視点1】 山形ならではの特色を打ち出すこと	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県の4地域は、それぞれ特性がある。各地の食文化、祈りの文化、民話、方言、自然、地形、最上川の歴史、樹氷など、山形にしかない、山形県ならではの文化、歴史、自然を、現代の生活につなげて紹介することで身近に感じ魅力になる。 ・資料を蓄積していくことにより何かを生み出していく学術的な専門家の視点が必要。
【視点2】 観光誘客など交流人口の増加により地域の活力向上につなげること	<ul style="list-style-type: none"> ・その土地の人々の暮らしと関連したもの、風土を作ってきたものには魅力があり、その魅力は観光誘客にもつながる。 ・博物館の内容だけではなく、交通政策、観光政策も含めた広い視点で考える必要がある。周辺の商業施設や地域企業との連携により経済効果を高めることが重要である。 ・例えば、食文化や歴史を紹介する展示企画と関連づけて、在来野菜を買ったり、郷土料理を食べられる施設があると、収蔵資料の理解が深まり、展示企画からの誘導もでき、集客につながる。 ・博物館の収益性が担保できることで、地域、子ども達、文化財の保存・修復にも還元できる。
【視点3】 デジタルの有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館法改正され、コロナ禍の中、デジタルアーカイブ化が業務として入ってきた。家にいながら博物館の展示を見て、博物館について実物を確認するなどがこれからのスタイルになるのではないか。 ・直接来館とデジタル上での利用という2つの利用法は並走していくと思われる。 ・山形県の4地域をまとめるようなデジタルの活用と実体験の場としての博物館という形が、県外と県内のニーズそれぞれに合致するのではないか。 ・開館までの変化を見据えて、その中で、リアルならではの、オンラインならではの体験を設計することが重要。 ・単に博物館資料をデジタル化するだけではなく、組織をデジタル化していかななくてはならない。地域の施設それぞれがフルスペックでデジタル化するのではなく、統一したデジタル化により横断的に結ぶなど組織横断的な動きが大きな課題であり、実現できれば効率化が進む。
【視点4】 次世代への継承	<ul style="list-style-type: none"> ・「普遍的な価値」があるものをブラッシュアップし、なぜそれが大事なのか、残していかななくてはいけないのか考えるきっかけをつくることにより、郷土への愛着につながる。 ・今にもなくなってしまうような文化がたくさんある。それらをリスト化し残していくことはとても大事なこと。 ・社会が変わっていく中で、博物館が収集している変わらないもの(リアル)に大きな価値が生まれる。変わらないものへの安心感が、人が集まるということに繋がるのではないか。
【視点5】 子どもの利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・民話を絵本にしたり、体験型の展示とするなど、子ども達が興味を持つような取組みがあると、博物館に行くきっかけになり、楽しく遊びに行ける。 ・学校で学んだことを補完できる展示企画があると、休日に家族で訪れる。親も郷土について学びなおして子どもに伝えていきたい。 ・子ども達だけで訪れることができる企画を実施してほしい。
【視点6】 県内博物館のネットワークの核としての役割	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県を一つの博物館ととらえ、各地域の小さな博物館や資料館等を横につなぐプラットフォームとなるのが、メインとなる県立博物館の役割。 ・それぞれの地域の文化を継承するのが、それぞれの地域の博物館であり、それらをつなげるのが県立博物館の役割。 ・他の県立の施設との関係など既存の博物館との連携及び位置づけの整理が大事。
【視点7】 効果的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の更新、発信が重要で難しいこと。関係者それぞれがサイトの情報を更新できるようにするなど参加型の情報の更新、発信ができれば、情報収集のスピードが速くなり、横のつながりもできる。 ・継続して来館者を確保するには、たくさんある収蔵資料から新たな魅力や見解等を提示し続ける必要がある。 ・博物館の仕事を多くの人に知ってもらうため、わかりやすく「見せる」ことが必要。博物館にまつわるすべての仕事・役割を見せることで、より興味を持ってもらえるのではないか。
【視点8】 開館までの取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・新博物館開館までの10年間に何ができるかということを考えたら良いのではないか。博物館の役割を多くの人に知ってもらうことが重要。 ・この間にコミュニティをつくり、成長させ、オープンにつなげていくような仕掛けができると面白い。 ・開館後継続していくためにも、開館までのプロセスの可視化と地域を巻き込むことが大事。